

香川県ふるさと水と土保全対策推進委員会 資料

令和 4 年 8 月 24 日

議題(1) 令和 3 年度事業報告について

<事業の目的>

中山間・棚田地域では、過疎化や高齢化の著しい進行により、地域の活力が低下しており、耕作放棄地の拡大など、農地や農業用施設の良い維持管理が困難な状況となっている。

このため、「ふるさと水と土保全対策事業」では中山間・棚田地域の農地や農業用施設の持続的な保全・利活用を促進し、中山間・棚田地域の有する多面的機能を良好に発揮するため、地域住民活動の活性化や都市住民も交えた継続的な保全活動を推進し、中山間・棚田地域の課題の解決を図ることを目的としている。

平成 5 年度から平成 12 年度末までに、**1,285,530 千円**の基金(水基金と棚田基金)を造成し、基金を活用して事業を実施している。

	基金名	事業目的	事業内容
ふるさと水と土保全対策事業	水基金 (685,530 千円) (中山間ふるさと・水と土保全対策事業)	中山間地域及びこれらの地域と一体として事業を推進することが効果的であると認められる土地改良施設及び農地機能の良好な発揮と地域住民活動の活性化を図る。	調査研究事業 ・香川大学委託事業
			研修事業 ・県内研修会 ・県外研修会
			推進事業 ・探検隊 ・写真コンテスト ・指導員事業
	棚田基金 (600,000 千円) (中山間ふるさと・水と土保全推進事業)	棚田地域等の農地等の保全・利活用に係る活動の活性化を図る。	推進事業 ・棚田カード ・田舎人
			保全活動事業 -
			支援事業 ・棚田地域の支援

ふるさと水と土保全対策事業の内訳



ふるさと水と土保全対策事業のイメージ図

<令和3年度事業実績>

ふるさと水と土保全対策事業(実績 29,280 千円 予算 36,947 千円)

ふるさと水と土基金(実績 4,663 千円 予算 6,400 千円)

①中山間地域資源保全対策調査事業(実績 1,011 千円)

②研修事業(実績 144 千円)

③かがわの農村・ふるさと景観写真コンテスト(実績 1,367 千円)

④棚田アワード(実績 141 千円)

⑤ふるさと水と土指導員活動費助成(実績 1,000 千円)

⑥多面的機能支払交付金広域化支援(実績 1,000 千円)

棚田地域水と土基金(実績 11,409 千円 予算 11,400 千円)

⑦広報活動事業(実績 309 千円)

⑧保全活動支援事業(実績 11,100 千円)

その他関連事業 (実績 13,208 千円 予算 19,147 千円)

①中山間地域資源保全対策調査事業(実績 1,011 千円)

<目的>

中山間地域の現状を調査し、地域資源を活かした活性化計画や活動計画を検討し、地域住民活動の活性化を大学（香川大学経済学部）と連携して推進することを目的とする。

<状況>

- ・ 観音寺市大野原町五郷地区(H22～24)
- ・ 三豊市詫間町積地区(H25～27)
- ・ 東かがわ市大内町水主地区(H28～30)
- ・ 高松市庵治地区(R 元～)

<庵治地区選定理由>

- ・ 農業、水産業、庵治石などの地場産業の衰退
- ・ 急激な高齢化の進行や人口減少に伴う地域活力の低下(スーパー、銀行なし)
- ・ 地域おこし協力隊や地域活性化協議会等の活動がない
- ・ 地域おこしに興味がある人物がいたこと

<令和3年度の内容>

- (1) 意見交換会の実施：アンケート結果報告会や意見交換会を通して、地域住民の合意形成を図り、具体的な地域活性化方策を探るとともに、そのうえで重要となる組織づくりについて検討する。

教員や学生が現地の農地など訪れ、フィールドワークなども行いながら地域住民の方と意見交換などを行い、コミュニティの現状の確認、活動状況、課題これからの地域の未来像などについて、いろいろな方からお話を伺い、情報共有した。それらをまとめて庵治だよりとして発行した。また、インスタグラムアカウントの運用を行った。

(活動の紹介)

2-1. 意見交換会の実施

庵治地区にてコミュニティの主体づくりならびに地域活性化策の具体化を図るため、以

下の日程で現地調査および意見交換会を実施した。

- ①2021年6月8日 意見交換会
ヒアリング場所：社会福祉協議会会議室
- ②2021年9月3日 意見交換会
ヒアリング場所：社会福祉協議会会議室
- ③2021年9月24日 地域組織についてのヒアリング調査
ヒアリング場所：オンライン会議
- ④2021年10月15日 地域組織についてのヒアリング調査
ヒアリング場所：庵治地区コミュニティセンター
- ⑤2021年10月27日 意見交換会
ヒアリング場所：庵治地区保健センター
- ⑥2021年11月8日 地域組織についてのヒアリング調査
ヒアリング場所：庵治保健センターほっとびあん
- ⑦2021年11月16日 地域組織についてのヒアリング調査
ヒアリング場所：庵治地区コミュニティセンター
- ⑧2021年11月24日 意見交換会
ヒアリング場所：庵治地区保健センター
- ⑨2021年1月13日 新春あじっこ登山隊 真冬の大冒険
ヒアリング場所：桜八幡神社、竜王山公園
- ⑩2021年2月16日 意見交換会
ヒアリング場所：庵治地区保健センター

以下、本節では現地調査および意見交換会の結果を記していく。



報告書より抜粋

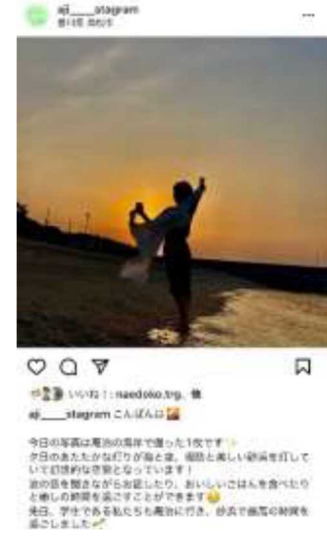
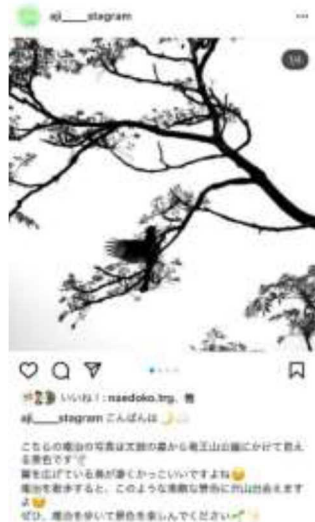


2-2. インスタグラムアカウント「あしたらやーじゃ庵治行こ隊」の運用

昨年度から継続して、庵治の地元メンバーと香川大学生でインスタグラムアカウント「あしたらやーじゃ庵治行こ隊」の運営を続けた。コロナ禍で現地にお伺いできない時期でも、庵治地元メンバーからの写真をもとに、学生が投稿する形式で1年間続けることができた。庵治観光交流館館長の中野氏を中心とした組織づくりから、高松社会福祉協議会の庵治支所長の中西氏を中心とした組織づくりへと変わってくなかで、情報発信を目的としてインスタグラムについても見直しを行い、今年度3月を一つの区切りとして、一度発信することを休止することとした。アカウントは残しているため、今後の組織づくりのなかで活用予定である。以下、今年度の投稿成果を整理した。



議題(1) 令和3年度事業報告について



<総評>

令和2年度の住民意識調査ならびに地域資源調査を通じて検討した地域活性化策(案)では、「半島という地形を活かした地域資源の発掘」ならびに「テーマをもったコミュニティの主体づくり」という活性化策の提案を行った。こうした検討結果を受け、令和3年度のアンケート結果報告会および継続的な意見交換会を通じて、地域様々な課題を浮き彫りにした。その中の一つである「**情報発信**」という部分に焦点をあて、最終的には庵治地区の産業活性化につながるプロジェクトへと進展させていくことを狙いとした取り組みとして令和3年度はInstagramを運営に取り組んだ。令和4年7月末現在、投稿**79**フォロワー**156**となっており、更なる増加が期待される。

しかし、最も問題となる「運営体制」である。「あしたらやーじゃ庵治行こ隊」については、地元住民4名を中核として、学生7名との協働によって運営されてきたが、先述のとおり、3月に一度学生による発信を休止した。しかし、地元側で引き続き活用を継続し、4月から5件投稿を行っている。引き続き、より効果的な運営方法を模索していきたい。

人口や産業、暮らしは時代の流れとともに変化するものであるが、守り継がれてきた自然、風習風土は大部分が現在も残っており、新たな魅力も生み出されようとしている。

令和4年度はそうした魅力に視点を当て、今暮らしている人、庵治に魅力を感じ期待している人、ふるさと庵治の未来を大切にしたい人が交流し学びあえる環境づくりを活動のテーマとして取り組みを進める。

②研修事業(実績 144 千円)

- ・ ②-1 全国研修会(中止)
- ・ ②-2 県外研修会(中止)
- ・ ②-3 県内研修会

②-1 全国研修会(省略)

②-2 県外研修会(省略)

②-3 県内研修会

<目的>

県内のふるさと水と土指導員や活動組織代表者の方々と地域の活動内容について情報交換を図るとともに、県内の地域交流を深め、先進地事例を視察することにより、次年度の地区活性化活動の計画の参考とする。

<研修内容>

令和3年12月16日に高松市塩江町上西地区(棚田地域等保全活動支援事業実施地区)で開催。

現地視察やワークショップ、意見交換会等を実施。

<過去の参加者等>

年度	開催地区	日時	参加者
H30	五名	11月15日	66名(うち地区関係者29名、香川大学学生15名、県関係者20名、講師2名)
R元	五郷	12月19日	61名(うち地区関係者37名、香川大学学生7名、役所関係者16名、講師1名)
R2	島が峰	12月17日	41名(うち地区関係者22名、香川大学学生15名、役所関係者3名、講師1名)
R3	上西	12月16日	60名(うち地区関係者39名、香川大学学生9名、役所関係者6名、講師1名)

<総評>

好評をいただいたイベントであった。幅広い年齢層の参加者がそれぞれ自分たちの所に置き換えて地域活性化について考えられた貴重な場であったと共に、県内実践者同士の横の繋がりができたことが大きな収穫であった。



③かがわの農村・ふるさと景観写真コンテスト(実績 1,367 千円)

<目的>

写真を通じて農村の美しい自然や文化を再発見し、農村の現状を再認識することで、ふるさとを保全していく機会とすることを目的とする。

<応募の状況>

年度	H28	H29	H30	R 元	R2	R3
応募者	97(2)	77(1)	100(4)	98(5)	108(4)	138(1)
応募作品	281	226	291	261	303	358

()は県外から応募者

<カレンダー配布>

写真コンテスト入賞作品の中からさらにピックアップしてカレンダーを作成。県内の小学校、官公庁に配布。

<パネル展示>

入賞作品をパネル化し、イベントの際に貸出

年度	H28	H29	H30	R 元	R2	R3
展示数	9	5	8	6	2	2

R3 年度 香川用水記念公園、土地改良課

<データ提供>

写真コンテストのデータを利用したい人に写真データを提供

年度	H28	H29	H30	R 元	R2	R3
展示数	2	3	7	3	12	11

<総評>

テレビなどの宣伝効果もあり、過去最高の応募数であった。また、データ提供については、関係機関よりパンフレットなどへの使用要望が多数寄せられた。

第21回コンテスト入賞作品



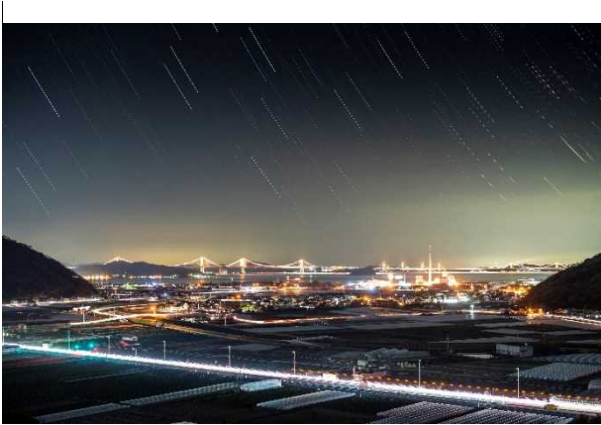
最優秀賞『泥、気持ちいい♡』



優秀賞『炭焼き小屋』



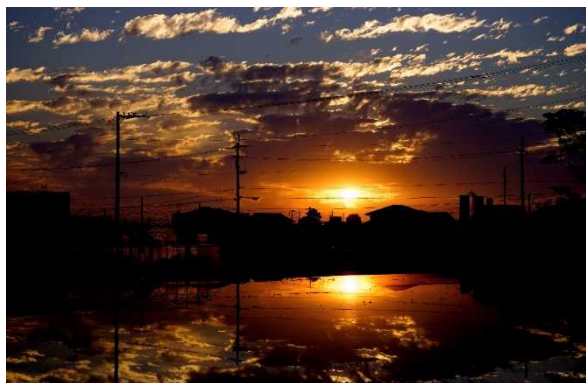
優秀賞『リフレクション』



優秀賞『明日への光』



優秀賞『減しないで!』



入選『朝の陽光』



入選『皆で収穫』



入選『夏休みの宿題』



入選『ひまわり畑展望台』



入選『「かかし」が見ている草抜き』



佳作『レタス収穫』



佳作『今年も豊作!』



佳作『あじさいに包まれて』



佳作『池の恵み』



佳作『ポーズ』



佳作『僕も植えるよ!』



佳作『収穫の頃』



佳作『田園アート』



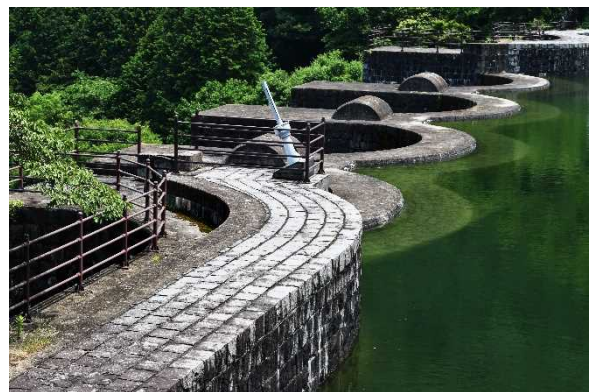
佳作『若きエース』



佳作『ネギ栽培』



香川県農業協同組合中央会
代表理事長賞『麦熟れる頃』



香川県土地改良事業団体連合会長賞
『豊稔池』



かがわグリーン・ツーリズム賞
『みんなで刈ったぞ～』



学生賞『かけっこ』



学生賞『田園の空』



学生賞『輝田』



棚田賞『棚田の田植え』

④ さぬきの棚田アワード(実績 141 千円)

【別紙1】 さぬきの棚田 20 選啓発用チラシを参照

(参考) 全国版の棚田選定 (つなぐ棚田遺産) について

1.概要

つなぐ棚田遺産とは、棚田地域の振興に関する取組みを積極的に評価し、国民の皆さまに、棚田地域の活性化や棚田の有する多面的な機能に対するより一層のご理解とご協力をいただくことを目的として、優良な棚田を認定する農林水産省の取組みである。

農林水産省では、平成11年に優れた棚田を「日本の棚田百選」として選定しているが、選定から20年を経過していることなどから、今年度改めて「つなぐ棚田遺産～ふるさとの誇りを未来へ～」として優良な棚田を選定。

棚田を核とした棚田地域の振興や伝統文化の継承などの取組みが優れた棚田を選定するため、優良な棚田を令和3年11月15日から12月15日までの1か月間募集（市町村による推薦）し、令和4年2月14日開催の「つなぐ棚田遺産選定委員会」で選定。

2.香川県からの選定地区

香川県からは以下の4か所が選定されている。

名称	市町名	団体名
小菘の棚田	三木町	株式会社山南営農組合
唐櫃の棚田	土庄町	唐櫃棚田保存会
中山千枚田	小豆島町	小豆島町中山棚田協議会
五郷の棚田	観音寺市	五郷里づくりの会

3.選定後の国の取組

募集、選定・公表を広報することで、つなぐ棚田遺産への期待感を醸成し、公表後は各省で棚田遺産を活用した取組を実施

- ・農林水産大臣から認定証を授与（ウェブ）
- ・農林水産省HPにおいて選定棚田をPR
- ・選定棚田の情報発信において、統一したロゴマークの活用が可能
- ・つなぐ棚田遺産オフィシャルサポーター制度（つなぐ棚田遺産に関する周知活動等を行う企業等を認定する制度）の実施

⑤ふるさと水と土指導員活動費助成(実績 1,000 千円)

<目的>

地域活性化の活動を推進・指導する地域のリーダー県下4名に対して支援し、活動の継続を図る。

<藤岡指導員>

観音寺市の五郷地区において里山あるき等で地域活性化の活動を実施。



<藤原指導員>

土庄町笠滝で小学生に対して食育体験活動を実施。



<東河指導員>

綾川町西分で椎茸原木整備や景観維持活動を実施。



<尾崎指導員>

丸亀市手島で景観作物栽培および活動 PR 動画製作などの活動を実施。



⑥多面的機能支払交付金広域化支援(実績 1,000 千円)**<目的>**

多面的機能支払交付金事業にて広域化を実施した地区において、事務負担の軽減を図るため、広域化・合併に伴い必要となる経費を支援し、既存活動組織の広域化を推進する。

<内容>

多面的機能支払交付金の活動組織に対して、広域化・合併に伴い必要となる需用費や賃金などの経費について助成する。

<補助対象者>

- (1) 令和3年度以降に設立され、実施要綱及び実施要領に基づく200ha以上の対象面積を有する広域活動組織
- (2) 令和3年度以降に5つ以上の既存活動組織が合併し、200ha以上の対象面積を有する活動組織
- (3) 令和3年度以降に既存活動組織と未取組集落地域を併せて5つ以上合併し、200ha以上の対象面積を有する活動組織

<補助率等>

県定額 上限1,000千円/年 最大3年間

<令和3年度実施地区>

多面協定まるがめ(丸亀市)。

⑦広報活動事業(実績 309 千円)

<目的>

季刊誌の配布や棚田カードの作成を通じて、地域住民や都市住民など幅広く農業や農村に関心を持ってもらうことを目的とする。

<田舎人>

年 4 回計 340 冊各地へ送付



<棚田カード>

小豆島町中山千枚田、土庄町豊島唐櫃、島が峰地区を作成しているが、このうち中山、唐櫃を増刷し配布した。

中山

唐櫃

島が峰



中山千枚田 (NAKAYAMA SENMAIDA)

棚田枚数	約770枚	平均勾配	1/4
主生産品	水稲、みかん、野菜	田植え	5月中旬
農作業時期	代かき:5月上旬 稲刈り:9月上旬	脱穀	9月中旬

小豆島(しょうどま)は瀬戸内海では淡路島に次いで2番目に大きな島で、「中山千枚田」はその小豆島のほぼ中央に位置します。「中山千枚田」では「名水100選」にも選ばれた「高瀬の名水」を水源に、標高150~250mの急峻な山腹に8.8ヘクタール、約770枚の大小さまざまな棚田が波形模様に広がっています。

注意 300年以上の伝統がある中山農村景観は、毎年10月上旬に開演されます。虫取りもたくから伝わる地域の伝統行事で、動作を劇的松明を手にした群衆の群舞を多く幻想的な光景は人々を魅了します。棚田のオーナーになると、このような伝統行事に参加できます。

棚田カードNo. 37-01-新元号元年〇月

唐櫃 (KARATO)

棚田枚数	約270枚	平均勾配	1/7
主生産品	水稲、みかん、野菜、蹄花	田植え	6月下旬
農作業時期	代かき:6月 稲刈り:10月上旬	脱穀	10月中旬

豊島(てしま)は香川県小豆島の西方に位置する、瀬戸内海に浮かぶ小さな島です。唐櫃(からと)地区は豊島の東部に位置し、かつては棚田が一面に広がっていましたが、次第に荒れ地となっていきました。そこで、豊前住民や行政、公益財団法人瀬戸内海による棚田の復元が行われ、以前の風景を取り戻しつつあります。

注意 豊島唐櫃の棚田からは瀬戸内海を一望でき、棚田と海と空が一体となった美しい眺めが人々の心を魅了しています。また、豊島には豊島美術館などのアート施設と地元の特産品を生かしたレストラン等があり、「食とアート」の場として国内外から注目されています。

棚田カードNo. 37-02-新元号元年〇月

島が峰 (SHIMAGAMINE)

所在地	香川県仲多度郡まんのう町川東	平均勾配	1/5
棚田枚数	約3.5ha	主生産品	そば
農作業時期	種まき:8月中旬 収穫:11月下旬	土寄せ	9月中旬

島が峰地区はまんのう町東南部の標高800mに位置し、冷涼な気候と地形を活かした高冷地野菜の栽培が盛んに行われていましたが、近年の過疎・高齢化に伴う労働者不足と高冷地野菜の価格低迷により、ほとんどの農家が耕作放棄地となり、草木が繁茂する状態が長年にわたり続いています。

この状況を憂いた地域住民有志が「島風景を復活させる会」を設立し、約3.5haの耕作放棄地において伐木・草刈り・開墾を行い、うどん文化が根付いている香川県において、この地域で昔から栽培されていた伝統的作物であるそばを中心に高冷地野菜の栽培を行っています。

棚田カード No. 37-03-令和2年9月

⑧保全活動支援事業(実績 11,100 千円)

<目的>

住民組織が行う棚田地域の保全活動や地域活性化に向けた活動などを支援し、継続的な活動を推進することを目的とする。

<屋形崎地区(土庄町 H29~)>

日本の夕日百選にも選ばれた風光明媚な地域。耕作放棄地のレモンや杏の植栽、交流イベントなどに助成。

【実績】 あんず収穫祭、あんず剪定講習会、景観保全作業



<伊喜末地区(土庄町 H30~)>

耕作放棄地に麦や野菜を耕作、また地域の交流イベントに対して助成。

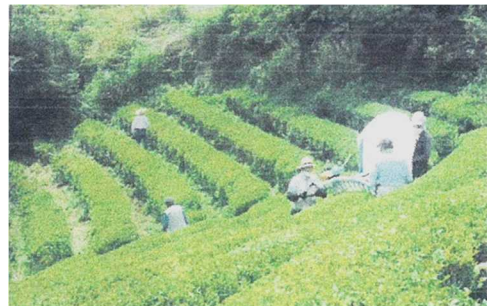
【実績】 収穫体験等 グリーンツーリズム体験 等



<上西地区(高松市塩江町 H30~)>

NPO 塩江交流ボランティア協会と一緒に実施している茶栽培、交流イベント等に助成。

【実績】、茶摘体験、収穫体験、地域交流イベント等
そば収穫祭



<小菫地区(三木町 H30~)>

農業体験や農泊施設の設備に対して助成。

【実績】 収穫体験、加工場設営、加工食品の開発



<積地区(三豊市詫間町 H30~)>

中山間地域資源保全対策事業積地区で作成された地域活性化計画を踏まえ、マルシェやイベントに助成。

【実績】 苗植付 マルシェ出店等



<美合地区(まんのう町琴南町 H29~)>

耕作放棄地に栽培したソバを利用した地域交流・地域活性化に資するイベント、開墾、鳥獣柵の設置に対して助成。

【実績】 ソバ畑整備、ソバ打ち体験、鳥獣害防止柵設置など



<水主地区(東かがわ市 R 元~)>

中山間地域資源保全対策事業積地区で作成された地域活性化計画を踏まえ、のぼりや収穫祭などに対して助成。

【実績】 のぼり設置、看板設置、水主神社ライトアップなど



<綾上地区(綾川町 R3~)>

綾上町西分にある棚田地域における農地の保全管理、地域のシンボルとなるクリスマスツリーの製作・点灯イベントなどを実施。

【実績】 棚田農園栽培管理、作業小屋の修繕



<総評>

棚田振興について全国的にも注目されつつある昨今、本事業に取り組む組織も増えてきた。令和3年度に、屋形崎・美合の2地区が、令和4年度に、伊喜末・上西・小蓑・積の4地区(補助金の期間は最大5年間)が終了予定。綾上については引き続き活動を継続していく。今後、棚田振興についてさらに啓発していくと共に、新たに本事業に取り組む組織も掘り起こしていきたい。

その他 関連事業など(実績 13,208 千円)

- ・ 中山間地域等人材緊急確保事業（農村整備課）
中山間地域において、将来にわたり農業生産活動を続けたい中山間地域等直接支払制度協定等を対象として、農業後継者等の多様な人材確保につなげる積極的な活動を支援し、中山間地域の農業・農村の活性化を図る。
- ・ 農地維持管理省力化事業（農村整備課）
農業者の減少や高齢化の進行により、農地や水路、農道などの管理が困難になっていることから、法面にカバープランツや防草シート等の整備を支援することにより、農地の維持管理軽減を図るとともに、担い手への農地集積を後押しする。
- ・ 地域特用作物等産地支援事業(農業生産流通課)
中山間地域等で栽培される茶、薬用作物などについて、省力化栽培技術や生産体制の整備など産地の取組を支援する。
- ・ みんなで守る地域農業整備事業(農業経営課)
構成員の若返りに取り組む組織に対して、農業用機械・器具等の整備を支援。
- ・ 広報事業(土地改良課)
県民に広く農業農村整備事業をPRするためにパンフレットを作成し配布する

香川県内の棚田 20 か所を『さめきの棚田アワード』に認定

1 概要

中山間地域に広がる棚田は、その立地条件を生かした農業生産活動の場としてだけでなく、多くの人が懐かしいと感じる原風景が残る、後世にも継承していきたい資産のひとつであり、県内にも美しい棚田が数多く存在します。

そのような中、本県において、県内の優れた棚田 20 か所を「さめきの棚田アワード」として認定し、『さめきの棚田 20 選』として、棚田の魅力を広く県民に伝えるとともに、これをきっかけとして、棚田地域の保全活動等に対する賛同者を獲得し、地域外からの地域活性化の新たなアイデアや保全活動への支援などに繋げていきます。

2 応募

1. 応募条件

- 農地傾斜が概ね 20 分の 1 以上のまとまりのある田又は畑
- 棚田の保全や地域振興のための活動などを実施していること
- 棚田を中心とした良好な農村の景観がみられるもの

2. 応募方法

一般公募及び市町による推薦

3. 応募期間

令和 3 年 9 月 1 日から令和 3 年 11 月 30 日まで



第 20 回かがわの農村・ふるさと景観写真コンテスト
優秀賞「稲刈体験」（中山千枚田 小豆島町中山）

3 審査会

令和 4 年 2 月 9 日にさめきの棚田アワード審査委員会を開催し、外部委員を含む選定メンバーにより審査・選定を行いました。

4 授与式

令和 4 年 2 月 28 日にさめきの棚田アワード認定証授与式を開催し、地域の代表者等に認定証を授与しました。



棚田カードも作成しています！
《香川県内 3 か所》

- 唐櫃の棚田（土庄町豊島唐櫃）
- 中山千枚田（小豆島町中山）
- 鳥ヶ峰の段畑（まんのう町川東）

さめきの棚田アワード認定棚田の HP は右の QR コードからアクセスしてください。



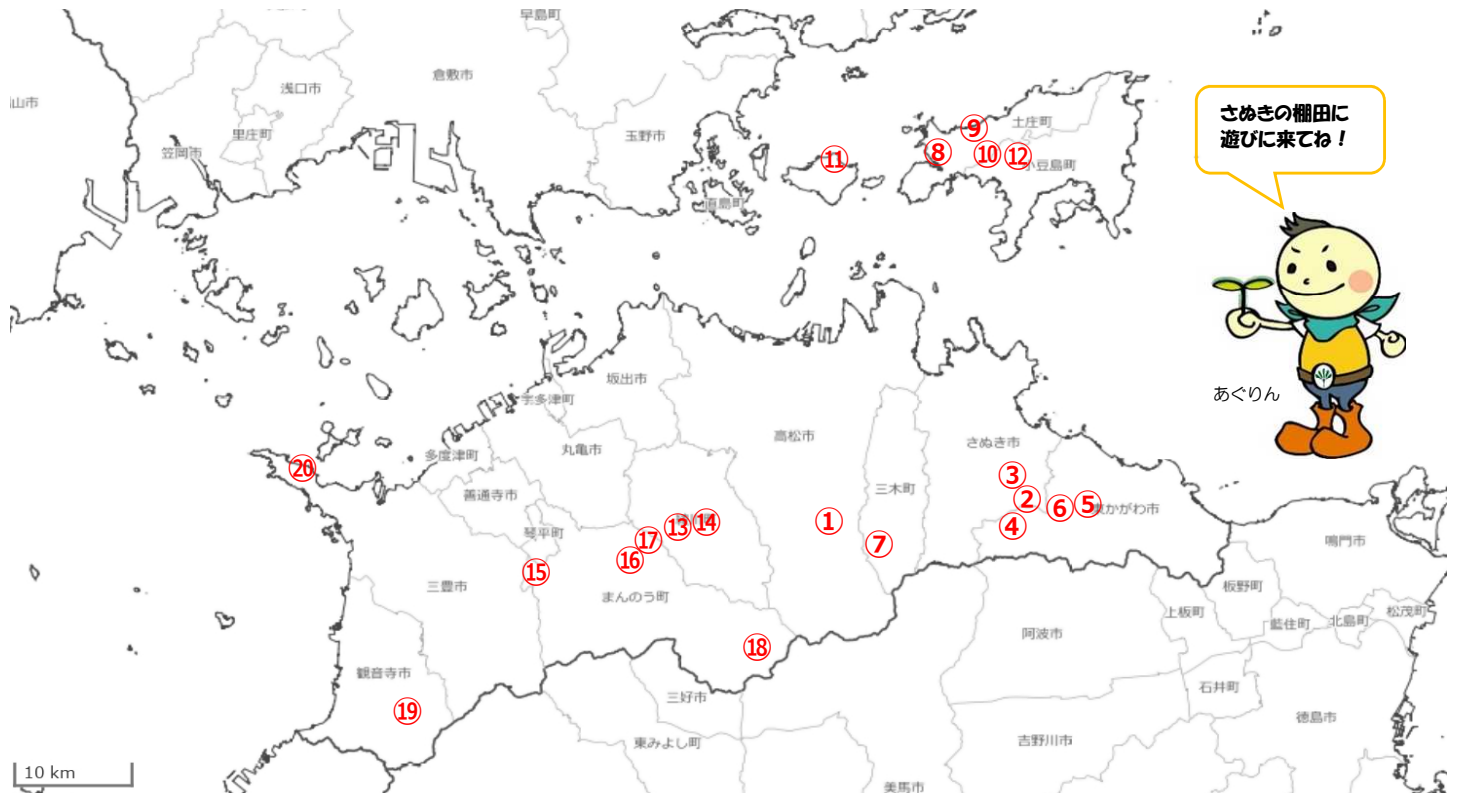
農林水産省「つなぐ棚田遺産」の HP は右の QR コードからアクセスしてください。



【お問い合わせ先】

香川県農政水産部農村整備課 農村環境グループ
TEL : 087-832-3449
FAX : 087-806-0205

さめきの棚田20選



さめきの棚田に遊びに来てね!



この地図は電子地形図（国土地理院 電子国土web）を加工して作成したものです



⑪ 唐櫃の棚田（土庄町豊島唐櫃）



⑫ 中山千枚田（小豆島町中山）



⑭ 四歩市の棚田（綾川町東分）



⑱ 島ヶ峰の段畑（まんのう町川東）

番号	棚田の名称	場所	保全管理団体
①	葛谷の棚田	高松市西植田町	西植田自然保護組合
②	森行の棚田	さめき市大川町	森行集落協定
③	豊田の棚田	さめき市大川町	豊田集落協定
④	五名の棚田	東かがわ市五名	影木屋集落協定 五名活性化協議会
⑤	水主・原の棚田	東かがわ市水主	原集落協定
⑥	笠松の棚田	東かがわ市水主	笠松集落協定
⑦	小藁の棚田	三木町小藁	株式会社山南営農組合
⑧	伊喜末の棚田	土庄町伊喜末	小豆島陽当の里伊喜末
⑨	屋形崎の段畑	土庄町屋形崎	屋形崎夕陽の丘継承会
⑩	肥土山の棚田	土庄町肥土山	肥土山を守る会
⑪	唐櫃の棚田	土庄町豊島唐櫃	唐櫃棚田保存会
⑫	中山千枚田	小豆島町中山	小豆島町中山棚田協議会
⑬	堂谷東の棚田	綾川町西分	堂谷東集落協定
⑭	四歩市の棚田	綾川町東分	四歩市上下集落協定
⑮	佐文の棚田	まんのう町佐文	佐文地区活動組織
⑯	平山の棚田	まんのう町炭所東	平山地区活動組織
⑰	上種子の棚田	まんのう町炭所東	上種子地区活動組織
⑱	島ヶ峰の段畑	まんのう町川東	島ヶ峰の原風景を守る会
⑲	五郷の棚田	観音寺市大野原町内野々	五郷里づくりの会
⑳	積の棚田	三豊市詫間町積	積楽しまん会

(別紙2)

中山間ふるさと・水と土保全対策事業 中山間ふるさと・水と土保全推進事業

事業実施計画

計画期間：令和2年度～令和6年度

計 画 内 容

1. 事業実施の基本方針
2. 事業計画
3. 事業実施の成果目標と実績
4. 事業評価と対応

香川県

1. 事業実施の基本方針

目標年度	令和6年度
現状と課題	本県の中山間地域においては、過疎化、高齢化等の著しい進行により地域の活力が低下しつつあり、将来にわたり農地や農業用施設の有する多面的機能が十分に発揮されるか危ぶまれている状況である。このため、中山間地域の活性化や多面的機能の良好な発揮を図ることが重要な課題となっている。
事業実施の基本方針	中山間地域において、農地や農業用施設の有する多面的機能の良好な発揮と中山間地域の活性化を図るため、中山間地域の農地の状況、地域資源、保全活動の現状を調査し、地域の魅力ある資源を十分発揮した活性化を推進する。また、都市住民に対して農地や農業用施設の持つ役割等について普及啓発活動を実施することで、都市住民との交流を促進する。
計画後の目指す姿	中山間地域における住民の保全活動に対する意識や理解度が高まり、各地域に即した地域活性化や保全活動が継続的に展開され、中山間地域の有する多面的機能が良好に発揮されることを目指す。また、中山間地域における農村の魅力や現状について都市住民からの理解が深まることにより、地域活動への理解や中山間地域と都市との住民交流を促進する。

2. 事業計画

事業（取組）名	事業（取組）内容	達成すべき目標との関連	事業実施要綱上の該当項目	5ヶ年間の事業(量)内容	5年間の総事業費(千円)			
①中山間地域資源保全対策事業	大学へ業務委託を行い、地域の現状の調査、地域資源を活かした活性化方策及び活動計画の検討などの地域活性化に資する調査研究を行う。	Ⅱ	ふる水第3-2-(1)	地域の農地・農業用施設の現状や魅力ある資源を調査し、地域の保全や活性化を図る上で何が必要かを検証するための現状調査(アンケート調査も含む)・課題抽出を行い、その対策等を検討する。5年間で地域活性化計画を2地区策定する。	20,000			
②指導員育成研修事業	全国土地改良連合会で主催される研修会等にふるさと水と土指導員候補者などを派遣し、人材の育成や活動に関する能力の向上を図る。また、指導員及び活動組織の代表などを交えた意見交換会を実施するとともに、県外先進地へ視察を行う。	Ⅱ	ふる水第3-2-(2)	全国土地改良連合会で主催される研修会に指導員(又は指導員候補者)を2名/年×5年=10名派遣する。また、県内研修会及び県外先進地視察も年1回開催するとともに、それぞれ5年間で10名派遣する。	10,000			
③かがわの農村・ふるさと景観写真コンテスト	美しい農村風景の写真を通じて、農村の持つ多面的機能や公益的機能の素晴らしさを再発見し、その理解を深めるため、写真コンテストを実施。	Ⅰ	ふる水第3-2-(3)	写真コンテストを幅広く周知し、R2～R6年度の5年間の平均応募者数を1割増やす。R2～R6年度の5年間の平均応募者数 295人 (H27 281人 H28 281人 H29 226人 H30 291人 R1 261人 計1,340人 平均268人 目標268×1.1≒295)	30,000			
④ふるさと探検隊	都市部の小学生を対象に、県内の代表的な農業水利施設である満濃池や豊稔池等を巡り、農業用施設の重要性や農村の持つ役割について理解を深める。	Ⅰ	ふる水第3-2-(3)	ふるさと探検隊を幅広く周知し、R2～R6年度の5年間の平均応募者数を1割増やす。R2～R6年度の5年間の平均応募者数 135人 (H27 68人 H28 75人 H29 177人 H30 106人 R1 179人 計605人 平均121人 目標121×1.1≒135)	8,433			
⑤ふるさと水と土指導員活動支援	中山間地域において、地域住民活動に必要な助言・指導を行う地域のリーダーであるふるさと水と土指導員を委嘱し、その活動に要する経費を支援する。	Ⅱ	ふる水第3-2-(3)	ふるさと水と土指導員の活動を支援するとともに5年間で指導員を5名増やす。	15,000			
⑥広報活動事業	土砂災害防止機能や地下水かん養機能など中山間地域がもつ「多面的機能」を県民に広く周知する活動を行う。	Ⅲ	棚田第3-2-(1)	多面的機能を県民に広く周知するとともに、棚田カード地区を5年間で倍増させる。	1,850			
⑦棚田地域等保全活動支援	中山間地域の農業・農村の活性化に資することを目的として、住民組織が行う棚田地域等の保全活動に要する経費へ支援を行う。	Ⅲ	棚田第3-2-(3)	本事業を広く周知するとともに、毎年度7地区支援する。(7地区/年×5年=35地区)	52,350			
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
中山間ふるさと・水と土保全対策事業(ふる水と土基金)	計画事業費	14,433	16,000	17,000	18,000	18,000		
	(実績額)	(10,029)	(11,871)					
中山間ふるさと・水と土保全推進事業(棚田基金)	計画事業費	8,200	10,000	11,000	12,000	13,000		
	(実績額)	(8,724)	(17,409)					

3. 事業実施の成果目標と実績

達成すべき目標	指標	基準値 (R1実績)	目標値	年度ごとの実績					達成度	備考
				令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度		
I 農地及び農業用施設の維持・保全・管理活動を通じた多面的機能の発揮	応募者数の増加	<③写真コンテスト> 応募者数261人	平均応募者数を1割増やす。 目標295人	303	358					
		<④探検隊> 応募者数179人	平均応募者数を1割増やす。 目標135人							
II 中山間地域の地域住民活動による地域の維持・活性化の実現	地域活性化を図る指導員の発掘及び増加	<①中山間地域資源保全対策事業> 地域活性化計画の策定 0地区	5年間で地域活性化計画を2地区策定する。	0	0					
		<②指導員育成研修事業> 研修派遣 1名	研修会に5年間で10名派遣する							
		<⑤指導員> 4名	5年間で指導員を5名増やす。	0	0					
III 棚田の保全及び地域の振興	地域活性化を図る地区の発掘及び増加	<⑥広報活動事業> 棚田カード2地区	5年間で実施地区を倍増させる。	1	0					
		<⑦棚田支援> 支援地区 7地区	毎年7地区を支援する。	7	8					

4. 事業評価と対応

達成すべき目標	事業実績の評価		備考
	外部有識者の所見	所見を踏まえた改善方針	
I 農地及び農業用施設の維持・保全・管理活動を通じた多面的機能の発揮			
II 中山間地域の地域住民活動による地域の維持・活性化の実現			
III 棚田の保全及び地域の振興			

議題(2) 令和4年度事業計画について

ふるさと水と土保全対策事業(R4 34,513 千円 R3 36,947)

ふるさと水と土基金(R4 8,600 千円 R3 6,400 千円)

①中山間地域資源保全対策調査事業(R4 1,600 千円 R3 1,200 千円)

②研修事業(R4 1,269 千円 R3 269 千円)

③かがわの農村・ふるさと景観写真コンテスト
(R4 1,561 千円 R3 1,561 千円)

④ふるさと探検隊(R4 370 千円 R3 370 千円)

⑤ふるさと水と土指導員活動費助成(R4 1,800 千円 R3 1,000 千円)

⑥多面的機能支払交付金広域化支援事業(R4 2,000 千円 R3 2,000)

棚田地域水と土基金(R4 9,400 千円 R3 11,400 千円)

⑦広報活動事業(R4 3,300 千円 R3 300 千円)

⑧保全活動支援事業(R4 6,100 千円 R3 11,100 千円)

その他関連事業(R4 16,513 千円 R3 19,147 千円)

①中山間地域資源保全対策調査事業(予算 1,600 千円)

庵治地区 4 年目。昨年度実施した地域活性化計画（案）をもとに、新型コロナウイルス感染対策状況を鑑みつつ、庵治地区における活動主体の状況を踏まえ、具体的な地域活性化実施計画（案）の作成を行う。

②研修事業(予算 1,269 千円)

<全国研修会>

農林水産省の方で農山漁村振興交付金事業の農村 RMO（農村型地域運営組織）全国研修会に便乗する形で開催することを検討しているとの情報があった。

<県内意見交換会>

12 月頃を予定。地区については現時点では未定。ただし、新型コロナウイルスの影響を踏まえ実施を検討。

<全国棚田サミット>

今年度は 10 月 1 日、2 日滋賀県高島市にて開催予定。さぬきの棚田 20 選の保全管理団体の関係者のうち希望者を派遣する。

③かがわの農村・ふるさと景観写真コンテスト(予算 1,561 千円)

第 22 回写真コンテストを実施。

④ふるさと探検隊(予算 370 千円)

令和 2 年度および令和 3 年度は新型コロナウイルスの影響により中止であったため、今年度は実施する方向で検討。

⑤ふるさと水と土指導員活動費助成(予算 1,800 千円)

昨年より 2 名追加されたため、6 名のメンバーで実施。

⑥多面的機能支払交付金広域化支援事業(予算 2,000 千円)

多面的機能支払交付金制度について広域・合併した組織を支援することにより、多面組織の解散を防ぎ、多面的機能の発揮及び農業・農村の活性化に繋げる。

⑦広報活動事業(予算 3,300 千円)

<田舎人>

年4回計340冊各地へ送付

<「さぬきの棚田20選」情報発信>

昨年度選定した「さぬきの棚田20選」について情報発信を行う。

- ①棚田アワード写真委託
- ②棚田カード作成
- ③棚田アワードパネル作成
- ④棚田アワードチラシ印刷

①棚田アワード写真委託

令和3年度に「さぬきの棚田20選」に選定された地区のPRで利用する広報用資料等に活用するため、訴求力のある写真を撮影し、さぬきの棚田の魅力や価値を効果的に発信する素材とする。

②棚田カード作成

「さぬきの棚田20選」の棚田カードを作成・配布する。

③棚田アワードパネル作成

棚田アワード写真委託にて撮影した写真を情報発信に使用するため、パネルにする。

④棚田アワードチラシ印刷

「さぬきの棚田20選」啓発用のチラシを作成・配布する。

⑧保全活動支援事業(予算 6,100 千円)

昨年度に終了した地区もあるため、今年度は6地区(上西、水主、積、伊喜末、小菘、綾上)にて実施。

その他 関連事業など(予算 16,513 千円)

- ・中山間地域等人材緊急確保事業(農村整備課)
- ・農地維持管理省力化事業(農村整備課)
- ・地域特用作物等産地支援事業(農業生産流通課)
- ・みんなで守る地域農業整備事業(農業経営課)
- ・広報事業(土地改良課)

議題(3) 昨年度の指摘事項等に対する対応について

1.令和3年度 香川県ふるさと・水と土保全対策推進委員会

指摘事項等	対応等
<p>平成の大合併によって、今まで小さなコミュニティ単位で情報発信していたものが、大きな単位となったため、情報発信力が低下したように思われる。中山間地域では、祭りなど魅力ある資源が沢山あるため、岡山県の上山集落のように、地域外から人を呼び込み情報発信することが重要と考える。</p>	<p>御指摘のとおり、地域外からの人を呼び込むためには、地域の行事などの情報発信が重要と考えています。このため、現在農村整備課で運用しているFacebook「かがわの農村」などを活用し、今年度から「さぬきの棚田20選」を中心に協力いただける地域の行事予定等を情報発信することとしています。将来的には、県(農村整備課)のホームページで、中山間地域の行事予定一覧などを掲載していきたいと思っております。</p>
<p>地域の魅力については、地元の人にとって当たり前とされていて気づかないことも、地域外の人気づく場合がある。地域活性化においては、地域外から地域活動に参加している学生などの新しい視点が必要である。</p>	<p>御指摘の地域活性化には多様な人材の視点が必要ということについては、県内でも小豆島町中山地区や三木町小菘地区などのように学生等が地域活動に参加しているケースもあり、学生を含む若い人や女性の力は非常に重要であると考えています。</p> <p>このような高校生や大学生、地域おこし協力隊など、多様な人材が様々な視点により活動を行っている県内事例を収集し、他地域への横展開を図っていくことが必要であると考えています。</p> <p>このため、現在、「さぬきの棚田20選」の地域について、どのような地域活動を行い、どのような人や団体が参加しているのかなどを体系的に整理しているところであり、今後地域活性化に取り組もうとしている地域や活動のレベルアップを目指している地域へ紹介していきたいと考えています。</p>
<p>地域活動を実施している組織の年齢構成も重要である。また、地域が持続的に発展していくためには、若い人の力や女性の視点が必要となる。</p>	
<p>東かがわ市五名地区のように中山間地域であっても移住者が多い地区もあり、地域活性化には若者の力が必要であると考えます。</p>	
<p>土地改良の観点から見た場合、過疎・高齢化により、耕作放棄地が増加するとともに、地域が管理するため池の維持管理に苦慮している。ため池の下流部には新規住宅もあり、決壊した場合甚大な影響を及ぼす可能性がある。そのため、これからの地域づくりには若者や女性の視点、外部の人の力などを合わせた組織体制が必要となってくる。</p>	

指摘事項等	対応等
<p>各地域で目指すべき活性化の目標が異なるため、各地域において優良事例を示しながら、どのような地域を目指すべきか検討していくことが重要である。</p>	<p>上記の県内事例を紹介することに加え、各地域の横のつながりが出来るように研修会などの機会も増やしていくこととしており、今年度は新たに、全国棚田サミット参加への支援を行うこととしています。</p> <p>また、農山漁村地域づくりホットライン(農林水産省が各県域拠点に設置している地域づくりに取り組む団体等からの相談を受け付ける窓口)や、よろず支援(公益財団法人かがわ産業支援財団が行う経営に関する無料相談)などを活用して地域をサポートしていきます。</p> <p>このような対応により、目指すべき活性化の目標が異なる各地域に対して支援を行っていきたいと考えています。</p>

2.さぬきの棚田アワード審査委員会

指摘事項等	対応等
<p>今回選定した棚田については、周辺に立て看板を設置することや、スタンプラリーを行って地域に人が集まるような取組みを実施してはどうか。</p>	<p>看板設置やスタンプラリーの実施は有効な取組みであることから、先ずは地域の方々の意向を確認するとともに、実施するための予算も検討したいと思います。</p>
<p>学生が行った棚田に関するアンケート調査では、学生全体の2割ほどが棚田に関心を持っているが、大部分の学生は、棚田との関わり方が分からないと回答している。そのような人にスポットを当てた取組みが有効ではないかと思う。また、グリーン・ツーリズム施設などと併せた情報発信など、棚田周辺地域と一体となった広報が今後の発展に繋がると思う。</p>	<p>地域と関わる機会を創出するためには、前述のとおり、地域の行事などの情報発信が重要と考えており、Facebook「かがわの農村」などを活用した行事の情報発信や、県(農村整備課)のホームページにおける地域行事などの掲載を行っていきます。</p>
<p>学校教育の中に棚田での農業体験など、経験に繋がる授業が含まれると、将来棚田等の農業支援に関わりたいと考える子供たちが増えるのではと思う。</p>	<p>前述のとおり、現在、「さぬきの棚田20選」の地域について、どのような地域活動を行い、どのような人や団体が参加しているのかなどを体系的に整理しているところであり、これらの県内事例を活用して、それぞれの地域の実情に応じたアドバイスを行っていきます。</p>
<p>農業を実際に体験してもらうことが一番良いと思う。現地に出向き、目で見てもらうことにより、都市部の方の心にも訴えるものがあると思う。棚田を保全する活動には地域の方の力だけではなく、外部との連携が不可欠だと思う。</p>	
<p>地域活動については、地域おこし協力隊の支援が地域の活動の幅を広げると思う。また、関係人口を呼び込むことも重要であり、学生のフィールドワークとして新たな知恵を加えていくことも有効ではないか考える。</p>	
<p>国でも観光面のアピールとして「四国八十八景」というインスタグラムを活用した、四国内の素敵な景観の写真を一般の方から発信してもらう企画を行っている。SNSを活用することで若者にも関心が向くようになると思う。</p>	<p>棚田に関心を持っている方々が、棚田に関われるように、県としてもホームページ等で地域の行事予定を掲載するなど、広く情報発信します。また、今年度は「さぬきの棚田20選」における四季折々の風景写真の撮影しているところであり、それらを用いて棚田カードや棚田紹介パネルを作成することとしており、棚田の情報発信に取り組みます。</p>
<p>農地の維持には、兼業農家の確保が必要であるが、農業にはきつい・汚いなどのイメージが先行しているところに課題があり、農業のイメージアップ教育も必要。棚田保全関係者の身内や後継者、棚田地域住民に対して、農業者の成果や努力がしっかりと伝わることで、棚田地域の維持発展に繋がると思う。</p>	<p>棚田関係者(身内や後継者等)のモチベーションが高められるよう、棚田保全活動について、県が広く情報発信していきたいと思います。</p>

指摘事項等	対応等
<p>稲作だけで棚田の保全活動を続けるのは、収入面から見ても現状では無理である。このことは県内のどの棚田にも言えることであると思う。米の栽培以外にも支援できる取組みが必要であると考える。</p>	<p>農林水産省においては、6次産業化のほか、農山漁村の活用可能な地域資源を発掘し、磨き上げた上で、他分野と組み合わせで新しい事業を創出する取組みである「農山漁村発イノベーション」を推進しようとしており、様々な支援策も検討されている。このような国の動きも注視しながら、本県で活用できる支援策については、各地域へ紹介していきたいと考えています。</p>